

信頼される三井化学グループであるために

当社は、2006年2月、CSR（社会貢献）推進の一環として「三井化学グループ行動指針」を制定しました。この「行動指針」は、当社グループが広く社会に貢献を続け、あらゆるステークホルダーから信頼される存在となるために、グループの役員、社員一人ひとりが何を大切に考え行動しなければならないか、すなわち、「行動のよりどころ」とするために制定したものです。そして、当社グループがこの「行動指針」の1番目に掲げているのが、「法令・ルールへの遵守」（コンプライアンス）です。

当社グループは、「行動指針」の冒頭で「いかなる利益の追求よりも、法令・ルールへの遵守を優先します。」と宣言しました。利益か法令・ルール遵守かという究極の選択を迫られる場面があれば、躊躇なく法令・ルール遵守を優先してください。

上場企業による製品データ偽装や不正会計等の法令・ルールへの違反事件の報道は絶えることなく続き、これら違反企業に対する社会の目は従来に増して厳しくなり、一つの法令・ルール違反を犯した企業が、今まで築いてきた信用や名声を一日で地に落とすような事例も発生しています。収益のみならず、社会的信用や名声も企業価値を構成するものである以上、「法令・ルールへの遵守」が会社存続の大前提であり、それなくして永続的に発展することも、社会的責任を果たすこともできないということを強く認識しなければなりません。

ここ数年、当社グループでは、国内外において、複数件の製品データ偽装も含む職務上の不正行為が確認されています。今後、VISION 2030の目標達成において、更にグローバルな事業活動が進展していくことを考えれば、グループ全体の価値を毀損しないためにも、グループ・グローバルにおけるコンプライアンスの意識も非常に重要になり、当社グループを挙げて「法令・ルールへの遵守」に努め、不正行為を撲滅しなければなりません。

古いことわざに「天知る 地知る 我知る 人知る」というものがあります。「不正については、誰も知らないと思っていなくても、不正を行った自分は知っている。不正の事実も残り、いつかは他の人の知るところになる。」というものですが、不正を防ぐには、すべての役員、社員が自主的に、そして自律的に法令・ルール遵守の姿勢をもって誠実な行動を積み重ね、グループ全体で一致して協働していくことが必要です。

これによって、三井化学グループが広く社会から信頼され、永続的発展の礎を築くことができるものと確信しています。

2023年1月
社長 橋本 修